

第2回 彦根市地域スポーツ・文化クラブ活動整備推進協議会・議事録

日時：令和6年10月3日（木）15:30～16:45

場所：彦根市役所3階 相談室3-2

氏名（※敬称略）	委員組織名	所属名・役職
	彦根市少年少女吹奏楽団の代表者	
	観光文化戦略部文化振興課の職員	
	教育委員会事務局生涯学習課の職員	
	教育委員会事務局学校教育課の職員	

3 報告事項（事務局より）

【これまでの協議より】

- ・指導できる人材を、どのように確保するか。
- ・活動場所の確保や鍵の管理。
- ・吹奏楽部については楽器の運搬方法。
- ・受け入れ可能な団体や活動場所の模索。
- ・子どもたちに、どのように『豊かな体験活動』（生涯学習）の機会を設けていくのか。



- 「中学校部活動の指導（教員の働き方改革含め）」と「文化部地域連携」を分けて考えたほうが進めていけるのではないか。

4 今後の方向性（案）

- ①部活動の指導として、土日活動をしている吹奏楽に対して、部活動指導員の複数名配置を要望していく。
- ②文化振興課から情報共有いただいた既存の文化連盟所属の各団体に対し、中学生の受入れへの協力依頼を行い、返答のあった団体を審査し認定したところを認可団体として、チラシ掲載し広報していく。

▼事務局をどうするか（事務方・運営方）

【協議内容】

- ・文化部の中でも、市内中学校すべてに設置されていて、毎週活動のある吹奏楽部の活動をどう保証するかを中心に考えていく。
- ・今後の方向性②について、子ども達が土日好きなことをしていく生涯学習（教育）とは別問題として考えていったらどうか。
- ・楽器の取り扱い方法が難しい。楽器の保管場所の問題で、活動場所に制約がある。（文化プラザで保管は難しい。）
- ・子ども達の希望として、本当に技術力の向上だけを求めて、別の団体で活動したいのだろうか。
- ・吹奏楽のコンクールは、現在、学校ごとでの出場しかない。（一般扱いとしての出場が可能なコンクールもある）
- ・新たな活動団体や新たな活動場所を探すのではなく、現状の学校部活動を軸に進めていくほうが現実的である。
- ・学校単位を活動拠点とすることで、活動場所は確保できる。鍵の問題については、以下2点を調査のうえ、今後検討していく。



- ①小学校の児童クラブ（学童）をモデルに、部活動指導員がカギを管理し、学校施設を使用することはできないか。（鍵が開けられる（警備セットと関係のない）玄関・楽器使用できる広いスペースが確保できるのか調査・検討が必要）
- ②学校の施設開放として、土日は体育館や柔剣道場を使用してはどうか。（楽器の保管場所があるのか調査・検討が必要）

学校名	R6 部員数	①調査	②調査
東中	37 人		
西中	32 人		
中央中	36 人		
南中	34 人		
彦根中	47 人	・ 教室前廊下に広いオープンスペースあり。	
鳥居本中	14 人		
稲枝中	33 人	・ 教室前廊下に広いオープンスペースあり。	

【次回部会 12/13（金）に向けて】

- ・ 各校の調査を進めていく。調査結果をふまえて、さらに協議を進める。
- ・ 活動場所の確保を協議したうえで、指導員の確保についても考えていく。市のアンケート結果や県の「滋賀コーチバンクシステム」の状況もみていく。